



平成28年7月15日

植物研で進む東アフリカ諸国との国際研究交流 初めてウガンダから留学生を受け入れ

岡山大学資源植物科学研究所の国際的新展開グループでは、東アフリカにおける植物ストレス科学の国際研究を進めるため、2008年よりケニアの大学と国際交流を行ってきました。本年10月、これらの国際交流を隣国であるウガンダ共和国にも拡大して新たな国際交流協定を締結することになりました。

相手側である同国のマケレレ大学は、東アフリカにおける最も歴史のある大学の1つで、首都カンパラに位置し、10のカレッジからなるトップレベルの総合大学です。本研究所では、マケレレ大学からの研究者を受け入れて植物ストレス科学の共同研究を行うとともに、10月から同国の留学生を環境生命科学研究所へ受け入れます。

＜東アフリカ諸国との交流実績について＞

資源植物科学研究所（植物研）では、地球温暖化による気象変動や21世紀の人口増加に対応する新たな作物の開発を目指した基盤研究を行っています。亜熱帯の乾燥地や不良土壌の多いアフリカ大陸はこれらの作物研究を進める国際研究拠点としても重要であり、植物研では2008年からケニアのジョモケニアッタ農工大学(JKUAT)を相手側とした国際交流と共同研究を行っています。

これまでに、3人の大学院生の受け入れ、20人以上のケニア若手研究者の受け入れ、30人以上の国内研究者のアフリカ派遣を日本学術振興会・JICAなどのサポートを得て実施（補足参照）。ケニアでの栽培に適したイネ品種の開発、アフリカ由来の雑穀ソルガムにおける乾燥耐性の研究プロジェクトなどが進行中です。

＜ウガンダ・マケレレ大学との交流展開と今後の展望＞

JKUATを拠点とした東アフリカにおける資源植物科学研究の実践では、現地での国際シンポジウムにアフリカ諸国（ウガンダ、ルワンダ、タンザニア、エチオピア）の研究者も招き交流を行ってきました。ウガンダ・マケレレ大学自然科学部の研究者らとの共同研究は2015年度から始まり、今年度も1人を受け入れて研究を行います。11月には、同大学を本学の教員が訪問し国際交流協定を締結する予定です。10月には、本学大学院環境生命科学



2015年10月マケレレ大学で開催した作物ストレス科学シンポジウム



PRESS RELEASE

研究科にウガンダからの留学生が進学し、植物研でイネの研究に従事する予定です。

本学では、農学部教員が JICA の支援による JKUAT の設立に携わった 1980 年代からケニアとの交流が続き、多くの留学生などを受け入れてきました。これらの交流実績をベースに行う今回のウガンダ共和国との交流により、植物研が進める植物ストレス科学研究を次世代作物開発につなげるための基盤研究と、それらを活かしたイノベーション研究の発展が期待されます。

<補 足>

担当研究グループ：

資源植物科学研究所国際的新展開グループ（兼任教員による）

坂本 亘、前川雅彦、鈴木信弘、谷明生、久保康隆

http://www.rib.okayama-u.ac.jp/researchgroup/researchgroup_index.html

関連国際事業名：

日本学術振興会・国際事業・研究拠点形成事業（アジア・アフリカ学術基盤形成型）

「汎アフリカ大学院と協働する資源植物科学イノベーション研究拠点」

日本側コーディネーター：岡山大学・教授・坂本 亘

期間：平成 26～28 年度

相手国側拠点機関：ケニア・ジョモケニアッタ農工大学

マケレレ大学ホームページ：

<https://www.mak.ac.ug>

マケレレ大学は 1922 年にウガンダ工科大学として設立されたアフリカで最も古い大学であり、植民地下の英国ロンドン大学時代、独立後の東アフリカ大学（ケニア・ナイロビ大学とタンザニア・ダーエルサレム大学との連合大学）を経て、1970 年に国立のマケレレ大学となった。ウガンダの首都カンパラに位置し、学生約 35,000、10 のカレッジから構成される総合大学でアフリカ近隣国からの留学生も比較的多い。近隣国の大統領経験者などが卒業生に名を連ねるトップレベルの大学である。

<お問い合わせ>

岡山大学資源植物科学研究所

教授 坂本 亘

（電話番号）086-424-1661

（FAX番号）086-434-1206

（HP）www.rib.okayama-u.ac.jp/index-j.html